

NPO法人

森を再生する会

会報

2025.5.1

第 39 号

巻頭言

木を植えることは未来をつくること

森を再生する会理事長 坂田成夫

昨年の6月から「森を再生する会」の理事長に就任しました。しばらく活動を休んでいましたので戸惑うことも多いと思います。一生懸命やることは得意ですので皆様、よろしくお願ひします。

30数年前に中学校の校長をしていた神谷輝幸先生に出会い、その後、誘われ「森を再生する会」の結成に参加しました。地球規模の課題となっている地球温暖化阻止のためにも、山の保水力を豊かにし、水資源確保のためにも、自然災害に備えるためにも森を再生する活動は、重要な活動だと考えて参加しました。

活動に参加してまず良かったのは人との出会いでした。木を植えることの大切さを指導してくれた宮脇昭先生、植樹祭の場所を提供して下さった段戸の炭焼き職人斉藤和彦さん、元農林省職員で炭焼き指導者の杉浦銀治さん、3人とも既に故人になってしまいましたが、3人の方との出会いは私の生き方に大きな影響を与えました。それ以外にも当初から森を再生する会の活動に参加して下さっていたMさん、Kさん、Sさん(3人とも残念ながら故人)など多くの人たちとの出会いが私の生き方に影響を与えてくれました。宮脇昭先生、斉藤和彦さん、杉浦銀治さん、Mさん、Kさん、Sさんなど当初から森を再生する会に関わっていただいたいろいろな人たちの思いや願いを今一度思い起こし、今後の活動に反映していきたいと考えています。

次に活動に参加して良かったのは活動の広がりです。安城市内 3 つのライオンズクラブの協力で実現した「安城市内全域で当時の市民の数である 172,000 本の木を植える」事業では多くの市民の人たちに活動に参加していただきました。「森を再生する会」主催の「春と秋の植樹祭」には親子連れ、企業からの参加などもあり毎回数百人規模の方が参加してくれました。多くの人たちに木を植えることの大切さを理解していただいたと思っています。

そして活動に参加して良かったのは楽しかったことです。木を植える準備をすること、木を植えること、そして、みんなで食事をする、雑談すること、集うこと、その全てが楽しい時間でした。“楽しかった。また参加したい、今度は家族や友達を誘って参加したい” そう思っていただけのような活動ができていたと思います。今後の活動でも“楽しい活動をつくる”その視点は大切にしていきたいと考えています。

木を植えるという活動は、未来を作る活動になります。私たちが次の世代にどのような風景を残していくか、どのような社会を残していくかが今の私たちは問われています

木の大切さや森の大切さを認識し、共有し、みんなで協力し、参加して、街中に緑溢れる風景、通学路に街路樹のある風景、学校に森のある風景、山や森が保全され、再生していく風景を作り出していきたいと願っています。

最後に昨年の 11 月 22 日に逝去された詩人の谷川俊太郎さんの詩を紹介します。

「木を植える」 谷川俊太郎

木を植える それはつぐなうこと わたしたちが根こそぎにしたものを

木を植える それは夢見ること 子どもたちのすこやかな明日を

木を植える それは祈ることいのちに宿る太古からの精霊に

木を植える それは歌うこと 花と実りをもたらす風とともに

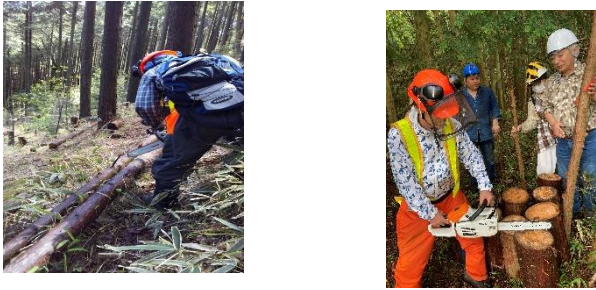
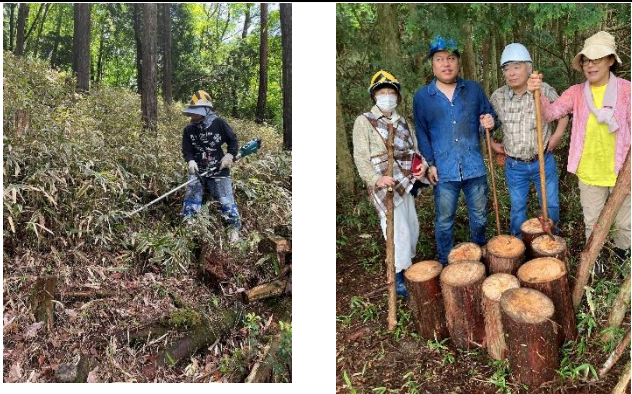

木を植える それは耳をすますこと よみがえる自然の無言の教えに

木を植える それは知恵 それは力 生きとし生けるものをつなぐ







2024 年度 NPO 森を再生する会

事業報告

活動状況 (あいち森と緑づくり事業)

写 真	内 容
	<p>行事名：間伐・草刈り 日時：令和6年5月18日 8：00～15：10 (うち、休憩は1時間) 場所：新城市作手高里 参加者数：8名</p>
	<p>行事名：間伐・草刈り 日時：令和6年6月29日 8：00～15：30 (うち、休憩は1時間) 場所：新城市作手高里 参加者数：9名</p>
	<p>行事名：伐採方法の指導と実践作業 日時：令和6年7月27日 8：00～15：30 (うち、休憩は1時間) 場所：新城市作手高里 参加者数：10名</p>

写 真	内 容
	<p>行事名：間伐・伐倒後の丸太切り、 危険性の説明を受け、実践</p> <p>日時：令和6年9月7日 8：00～15：10 (うち、休憩は1時間)</p> <p>場所：新城市作手高里</p> <p>参加者数：10名</p>
	<p>行事名：間伐・丸太切り</p> <p>日時：令和6年9月16日 8：00～15：00 (うち、休憩は1時間)</p> <p>場所：新城市作手高里</p> <p>参加者数：2名</p>
	<p>行事名：間伐・丸太切り</p> <p>日時：令和6年9月23日 8：00～15：10 (うち、休憩は1時間)</p> <p>場所：新城市作手高里</p> <p>参加者数：5名</p>

写 真	内 容
 	<p>行事名：植樹祭時の植樹場所と登山ルート作り指導</p> <p>日時：令和6年9月29日 8：00～15：10 (うち、休憩は1時間)</p> <p>場所：新城市作手高里</p> <p>参加者数：8名</p>
 	<p>行事名：丸太切りと植樹場所の整備作業。</p> <p>日時：令和6年10月13日 8：00～15：10 (うち、休憩は1時間)</p> <p>場所：新城市作手高里</p> <p>参加者数：5名</p>
 	<p>行事名：丸太切りと植樹場所の整備作業</p> <p>日時：令和6年10月14日 8：00～15：10 (うち、休憩は1時間)</p> <p>場所：新城市作手高里</p> <p>参加者数：5名</p>

写 真	内 容
	<p>行事名：来期の間伐計画の説明と丸太切り時の指導・間伐</p> <p>日時：令和6年10月19日 8：00～15：20 (うち、休憩は1時間)</p> <p>場所：新城市作手高里</p> <p>参加者数：7名</p>
 	<p>行事名：植樹祭・山道階段作</p> <p>日時：令和6年10月27日 8：00～16：00 (うち、休憩は2時間)</p> <p>場所：新城市作手高里</p> <p>参加者数：27名</p>
 	<p>行事名：間伐・丸太切り</p> <p>日時：令和6年11月23日 8：00～15：20 (うち、休憩は1時間)</p> <p>場所：新城市作手高里</p> <p>参加者数：4名</p>

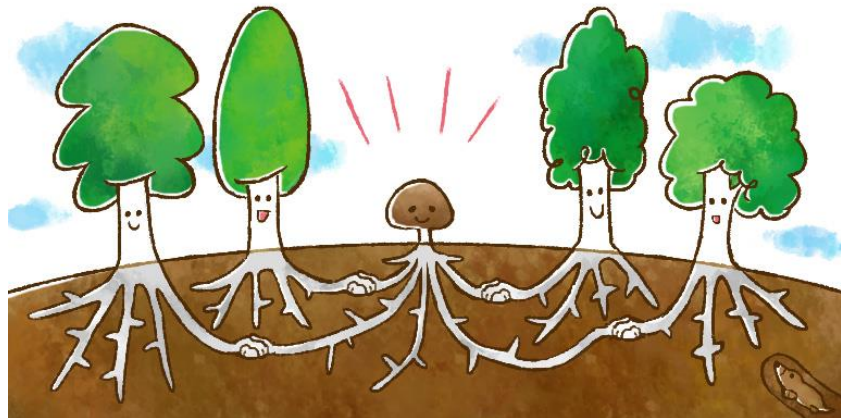
1, 森から学ぶこと

青森県のリンゴ農家木村秋則さんは、日本で始めて無農薬でリンゴをつくることに成功しました。奥さんがリンゴの木に散布する農薬で体調を壊すのを見て、無農薬栽培に挑戦しました。成功するまでの道のりはすさまじく、貧乏、村人からの中傷など、苦難の末に8年目にしてリンゴ無農薬栽培に成功しました。成功のカギは、何だったでしょう。木村さんは、生活にも行き詰まり死んでお詫びしよう、と山に入りました。首を吊ろうとふと山を見上げると、森は人間が特別手をかけずに成長し、クリやカキは立派に実をつけているではありませんか。畑と山の土を比べると全く違うことに気づき、森のような土をつくれればいいのだということに気づいたのでした。

最近森はすごい力のあることが分かってきました。森の木々たちは、根っ子で菌根菌とつながっているのです。森の根っこと木々は、お互いに栄養を分かち合い補い合っているのです。

特に土の中に菌根菌はじめ、多数の微生物がいなければ土は健全でないことがわかってきました。

畑や田んぼで自然栽培を成功させるには、菌や微生物が住める土壌環境が必要です、根っ子や葉っぱも土には必要なものです。都会で落ち葉を燃やすのはもってのほかです。



2, あなたにとって里山とは何か？

-葉っぱビジネスは1986年頃から徳島県上勝町で始まった-

里山の分かりやすい例が徳島県上勝町にあります。皆さんは「葉っぱビジネス」という言葉を聞いたことがありますか？葉っぱビジネスとは、季節の葉っぱや花、山菜などを栽培・出荷・販売する農業ビジネスのことを指します。



葉っぱビジネスのうちの約8割が料理の飾りに使われる「つまもの」です。つまものはかつてから存在しましたが、それをメインに扱ってきた農家は存在せず、それぞれの飲食店が独自に入手するのが当たり前でした。この需要に注目して生まれたのが、葉っぱビジネスです。

近年、高齢者や女性が活躍するビジネスとして、注目を集めています。

葉っぱビジネスの種類には大きく分けて、つまもの・縁起物・わさび菜の3種類が挙げられます。



① つまもの

料理に添えられるつまものは、綺麗な形や色が重要視されます。そのため、美しい形の「南天(ナンテン)」や、青もみじが販売されます。

② 縁起物

縁起物の葉っぱは、イベントの時期に販売されることが多く見られます。「ゆずり葉」や「ナンテンの樹」が例として挙げられます。

③ わさび菜

葉っぱビジネスの3つ目の種類が「わさび菜」です。葉わさび・ミニ葉わさび・マイクロ葉わさびと異なるサイズがあります。生産者はサイズごとに販売を行っています。

地域資源を上手に活用した事例

上勝町は、今まで「ただの葉っぱ」と見過ごされてきた**地域資源**を活用したことで、地域経済を活性化させることに成功しました。自分達のすぐ近くにある環境や、物の価値にはなかなか気

づきにくいものです。しかし、その需要に気づいたことで、原価ゼロ円のビジネスを生み出すことができました。

そのため、特に過疎化が懸念される地方で活かせるビジネスモデルとして注目を集めています。

3, 私たちが購入した作手の山は、どんな里山にしたいか？

里山とは、「集落や人里に近く、人間の影響を受けた生態系が存在する山」ということになりましょうか。

4月27日、作手山の食事会は、この山を里山として育て、その恵みを味わう機会です。あなたにとってどんな発見があったでしょうか？水源の森づくりでもありますが、これからはより森を身近に感じてもらうために里山づくりという視点を加えました。27日は、里山として育てる出発点であります。将来、どんな里山に育つか、どんな里山に育てるか、自分たちの山として楽しみながら参加してくださいね。

4, NPO法人森を再生する会 20年を振り返る



2004.10.23 私たちは段戸山の斉藤和彦様の山で植樹を始めました。生態学者宮脇昭先生の指導の

下、「ふるさとの木によるふるさとの森づくり」です。この植樹には安城のライオンズクラブのみさんをはじめ多くの人々の参加を得て盛大に行いました。



そして、2023.7.23 同じ場所で自然観察会を行い、その後の成長を測定しました。20年ぶりにこの木々に再会された古井銀太郎様は「これは私の植えた木です。はっきり覚えています」とわが子の成長を眺めるように、木の肌に触れ感無量の様子でした。

参加した人は20年で18メートルから20メートルの大きさに育ったブナ、ミズナラ、トチノキなどの木々のたくましさそれぞれ感無量の思いで見上げていました。詳しくは20周年記念誌で紹介します。

(文責 神谷)



訃報

2024年11月13日早朝、杉浦彦展様のご家族から彦展様の訃報連絡がありました。長い間、本会の活動を支援していただき、森再生のために霞が関に陳情に出かけ、またトヨタ自動車本社まで出かけて森再生の支援活動に精力的に動いていただきました。植樹祭には毎年お元気にご参加いただいた姿が目につか



全国の森再生のための予算陳情メンバー(国会にて)

びます。また山を買うために多額のご寄付もいただき、設楽町納庫(なぐら)と新城市作手に2つの山を購入できました。思い出は尽きませんが、故人を偲び、謹んでお悔やみ申し上げますとともに心よりご冥福を申し上げます。合掌

ご寄付(令和6年度分)

遠山松枝様 2万円(山林購入資金として)

神谷輝幸様 1万円(山林購入資金として)

石原勝成様 2千円 深津 隆様 2千円